

# 行政視察報告書

平成31年 7月28日

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

長浜市議会議員

竹本直隆



- 1.視察等名 「新しい風」会派視察 自治体向けICT推進セミナー
- 2.視察期間 平成31年7月25日~26日
- 3.視察場所 前橋市役所「フードバンク事業」  
(株)環境技術研究所「陸上海水魚養殖システム」について
- 4.調査内容感想等

## 1、「フードバンク」事業について

「フードバンクまえばし」では、まだ安全である食品が処分されてしまう前に、企業や個人から無償で寄付をしていただき、様々な事情により緊急で食料支援を必要とする生活困窮者世帯等へ配布されています。事業については、NPO法人三松会に業務委託され、全国で初めての事例になります。利用にあたっては「まえばし生活自立相談センター」窓口で申請受付を行っており、申請者からの生活の状況を聴き、食料支援が必要か否かを判断している。また、食料支援を受けることができる期間は原則3ヶ月までとし、生活に困窮する方の自立促進を図っています。

### ①事業開始に至る経緯

食品ロスの視点からゴミの削減に向けた取り組みではなく、困窮者支援の福祉施策として必要性を感じ、検討を行い実施した。

### ②事業のメリット・デメリット

これまで相談に来ることができなかつた困窮者の方が、食料支援だけでも受けたいと希望するようになり、新たな支援対象者の掘り起こしにつなげることができ、早期段階における自立支援が可能になる。また子供の居場所づくりにも貢献している。

デメリットは有益な事業ではあるが、国の補助金がなく、市の一般財源で賄われているため財政負担が大きいというデメリットがある。

### ③事業の現状及び実績等について

平成29年度の個人利用者367件、団体件数13件、平成30年度個人461件、団体11件と想定  
の200件を大きく上回っている状況にあり、利用者の6割が65歳以上でもある。

「フードバンクまえばし」の寄付受入だけでは食料供給が追いつかないといった状況で、企業  
からの食料提供も想定より少ない状況であり協力企業の拡大が課題である。

今回の「フードバンクまえばし」の事業は福祉政策としては、大胆でかつ画期的な事業である  
と痛感した。この事業の推進者は、前橋市会議員の提案であり、市もかなりの英断であった  
と推測できる。長浜市においても調査、研究が必要かと感じた。

## 2、（株）環境技術研究所「陸上海水魚養殖システム」について

海のない県での養殖事業が昨今全国で展開され、地域振興につながっているとの報道がなされ  
群馬県前橋の（株）環境技術研究所への視察研修を行ったが、陸上での養殖事業としては成功  
であったが、稚魚の価格が一匹500円と高価なため、運送費、電気料金、餌などの経費を差し引  
くと、事業としては成り立たないことが判明した。ニュース報道では大々的に報道され、各社の  
メディアも訪れたようだが、一番大事な採算面については、報じられておらず、残念であった。